



平成23年5月19日

各位

株式会社T&Dホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太陽生命保険株式会社
 大同生命保険株式会社
 T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

平成23年3月期決算のお知らせ

T&D保険グループ（T&Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命）の平成23年3月期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の決算について、以下のとおりお知らせいたします。

契約業績（生命保険会社3社合算：個人保険・個人年金保険）

- 新契約高は、6兆3,482億円、前年から0.3%の増加、
- 解約失効高は、4兆4,968億円、前年から12.0%の減少、
- 保有契約高は、5兆8408億円、前年度末から0.6%の増加となりました。

損益関係（T&Dホールディングス連結）

- 経常収益は、1兆9,930億円、前年から15.1%の減少、
うち保険料等収入は、1兆4,742億円、前年から22.3%の減少となりました。
- 経常利益は、949億円、前年から17.9%の増加となりました。
- 当期純利益は、238億円、前年から1.7%の減少となりました。

株主配当

- 1株当たり年間配当金は、45円を予定しています。

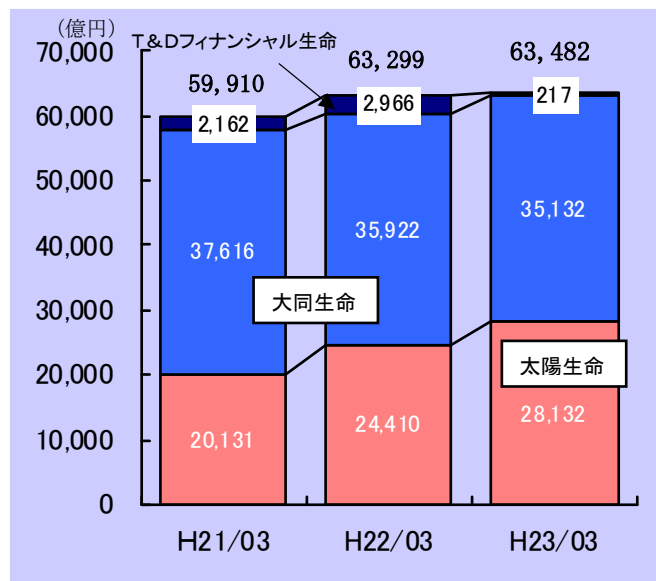
以上

【お問合せ先】

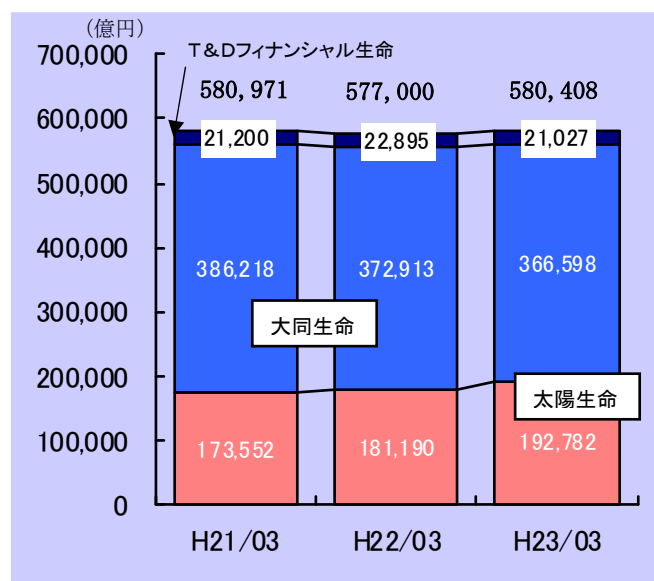
株式会社T&Dホールディングス	広報部	松尾	TEL 03-3434-9181
太陽生命保険株式会社	広報課	家徳	TEL 03-3434-5257
大同生命保険株式会社	広報課	前田	TEL 03-3434-9190
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課	進藤	TEL 03-3434-8840

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

○新契約高の推移（3社単純合算）



○保有契約高の推移（3社単純合算）



	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約高	63,482	182 増 (0.3%増)	28,132	3,722 増 (15.2%増)	35,132	789 減 (2.2%減)	217	2,749 減 (92.7%減)
解約失効高 (解約失効率)	44,968	6,156 減 (12.0%減)	11,328 (6.25%)	140 増 (0.20ポイント低下)	32,638 (8.75%)	6,153 減 (1.29ポイント低下)	1,001 (4.38%)	142 減 (1.02ポイント低下)
新契約年換算保険料	1,032	1,600 減 (60.8%減)	397	12 増 (3.1%増)	621	1,075 減 (63.4%減)	13	536 減 (97.5%減)
うち医療保障・ 生前給付保障等	108	5 減 (5.2%減)	70	17 減 (20.1%減)	38	11 増 (44.9%増)	—	— (—)
保有契約高	580,408	3,407 増 (0.6%増)	192,782	11,591 増 (6.4%増)	366,598	6,315 減 (1.7%減)	21,027	1,868 減 (8.2%減)
保有契約年換算保険料	13,973	1,368 減 (8.9%減)	5,954	64 減 (1.1%減)	6,255	1,236 減 (16.5%減)	1,763	67 減 (3.7%減)
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,626	32 減 (1.9%減)	1,082	15 減 (1.4%減)	497	12 減 (2.4%減)	45	4 減 (9.3%減)

(注) 新契約高には転換による純増加高を含んでおります。

■ 3社単純合算

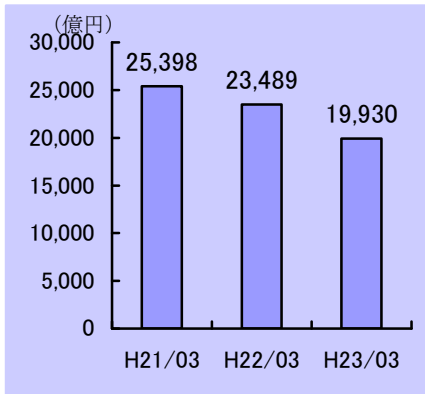
- ・新契約高は、6兆3,482億円、前年から0.3%の増加。
これは主に、太陽生命の新契約が好調だったため。
- ・解約失効高は、4兆4,968億円、前年から12.0%の減少。
これは主に、大同生命の解約が減少したため。
- ・保有契約高は、5兆8千408億円、前年度末から0.6%の増加。
これは、太陽生命の新契約高が好調に推移しているため。
なお、T&Dフィナンシャル生命の減少は主に、相場変動により変額個人年金保険の保有契約高が減少したことによる。

■ 各社の状況

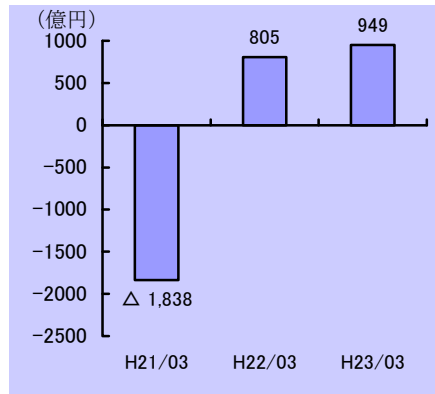
- ・太陽生命の新契約高は、2兆8,132億円、前年から15.2%の増加。
これは、主力商品である「保険組曲Best」の販売が好調であったため。特に、「保険組曲Best」の主契約の1つとして平成22年3月に発売した「生活応援保険」の販売が好調であったことが要因。
- ・大同生命の新契約高は、3兆5,132億円、前年から2.2%の減少。
これは、前年度好調だった「無配当一時払個人年金保険」の減少による。
なお、主力の個人定期保険は前年から0.6%の増加。
また、新契約高には計上されないが、主力のひとつとして平成22年10月に発売した「Jタイプ（無配当重大疾病保障保険）」の重大疾病保険金額と個人定期保険の新契約高を合計した金額は、対前年3.4%の増加。
- ・T&Dフィナンシャル生命の新契約高は、217億円、前年から92.7%の減少。
これは主に、前年度販売が好調だった年金原資保証型の変額個人年金保険を平成22年3月末に販売休止したこと、および定額個人年金保険や終身保険の販売が不振であったことによる。

[損益関係]

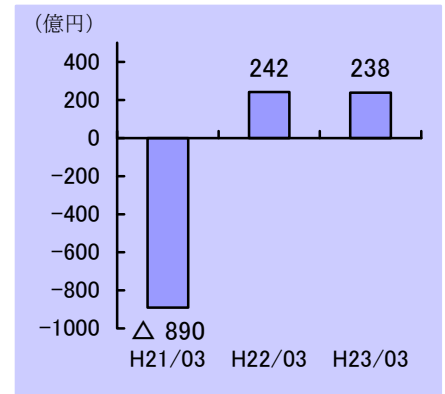
○経常収益（連結）



○経常利益（連結）



○当期純利益（連結）



(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当連結会計年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
経常収益	19,930	3,558 減 (15.1%減)	9,197	49 減 (0.5%減)	9,626	2,155 減 (18.3%減)	1,063	3,196 減 (75.0%減)
うち保険料等収入	14,742	4,240 減 (22.3%減)	7,179	43 増 (0.6%増)	7,171	1,438 減 (16.7%減)	386	2,848 減 (88.1%減)
うち資産運用収益	3,041	715 減 (19.0%減)	1,784	116 増 (7.0%増)	1,288	104 増 (8.8%増)	95	830 減 (89.7%減)
うちその他経常収益	2,146	1,398 増 (186.8%増)	232	209 減 (47.4%減)	1,166	821 減 (41.3%減)	581	481 増 (481.8%増)
経常費用	18,981	3,702 減 (16.3%減)	8,698	99 減 (1.1%減)	9,138	2,152 減 (19.1%減)	1,134	3,268 減 (74.2%減)
うち保険金等支払金	15,122	2,246 減 (12.9%減)	6,851	214 減 (3.0%減)	7,392	2,097 減 (22.1%減)	876	64 増 (8.0%増)
うち資産運用費用	1,067	213 減 (16.7%減)	483	34 増 (7.7%増)	537	23 増 (4.5%増)	156	150 減 (49.0%減)
経常利益（△損失）	949	143 増 (17.9%増)	498	49 増 (11.1%増)	488	3 減 (0.7%減)	△70	72 増 (50.6%増)
特別損益	△228	54 減 (31.5%増)	△142	1 増 (1.0%減)	△64	40 減 (166.4%増)	△18	13 減 (290.5%増)
契約者配当準備金繰入額（△戻入）	297	2 増 (0.8%増)	154	6 増 (4.1%増)	142	3 減 (2.7%減)	△0	0 増 (52.6%減)
税引前当期純利益（△損失）	424	86 増 (25.8%増)	201	45 増 (28.9%増)	280	39 減 (12.4%減)	△88	58 増 (39.8%減)
法人税等合計	183	91 増 (98.9%増)	75	64 増 (594.7%増)	120	2 増 (2.0%増)	△25	18 増 (41.8%減)
当期純利益（△損失）	238	4 減 (1.7%減)	125	19 減 (13.4%減)	160	42 減 (20.8%減)	△63	40 増 (38.9%減)

(参考)

資産運用関係収支（一般勘定）	2,140	611 増 (40.0%増)	1,301	90 増 (7.5%増)	765	147 増 (23.8%増)	91	358 増 (—)
東日本大震災に係る支払備金繰入額	157	—	42	—	113	—	1	—

- (注) 1. T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の単純合算とは必ずしも一致いたしません。
 2. 保険料等収入の3社単純合算は1兆4,737億円（前年比22.4%減）です。
 3. 資産運用関係収支（一般勘定）は、一般勘定に関する資産運用収益から一般勘定に関する資産運用費用を差し引いたものです。
 4. 東日本大震災に係る保険金・給付金の支払い見込み額は、3社合計で170億円（太陽生命49億円、大同生命118億円、T&Dフィナンシャル生命2億円）であり、そのうち表中「東日本大震災にかかる支払備金繰入額」の金額を支払備金に積立てています。

■ T & Dホールディングス連結

- ・ **経常収益**は、1兆9,930億円、前年から3,558億円の減少。
これは主に、大同生命とT&Dフィナンシャル生命の保険料等収入の減少による。
- ・ **経常利益**は、949億円、前年から143億円の増加。
これは主に、太陽生命と大同生命の資産運用関係収支が増加したことによる。
- ・ **当期純利益**は、238億円、前年から4億円の減少。

■ 太陽生命の状況

- ・ **経常収益**は、9,197億円、前年から0.5%の減少。
- ・ **保険料等収入**は、7,179億円、前年から0.6%の増加。
これは主に「保険組曲Best」の収入保険料が増加したため。
- ・ **経常利益**は、498億円、前年から11.1%の増加。
- ・ **当期純利益**は、125億円、前年から13.4%の減少。
なお、価格変動準備金に100億円の超過繰入を実施。

■ 大同生命の状況

- ・ **経常収益**は、9,626億円、前年から18.3%の減少。
- ・ **保険料等収入**は、7,171億円、前年から16.7%の減少。
これは主に、前年度好調だった「無配当一時払個人年金保険」の新契約高が減少したため。
- ・ **経常利益**は、488億円と前年並み。
- ・ **当期純利益**は、160億円、前年から20.8%の減少。
なお、危険準備金に66億円、価格変動準備金に31億円の超過繰入を実施。

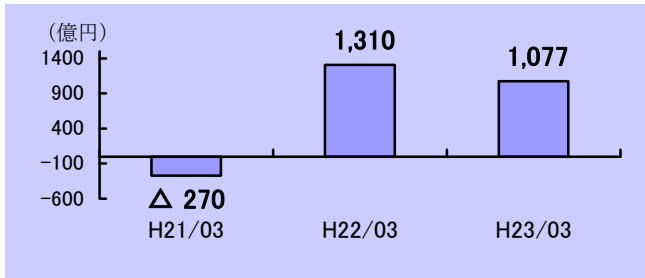
■ T & Dフィナンシャル生命の状況

- ・ **経常収益**は、1,063億円、前年から75.0%の減少。
- ・ **保険料等収入**は、386億円、前年から88.1%の減少。
これは主に、年金原資保証型の変額個人年金保険を平成22年3月末に販売休止したため。
- ・ **経常利益（△損失）**は、△70億円、前年から50.6%の改善。
- ・ **当期純利益（△損失）**は、△63億円、前年から38.9%の改善。

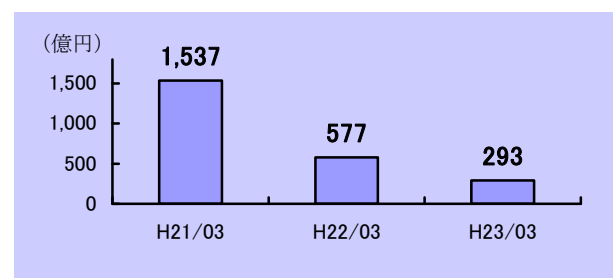
[その他の指標等]

<基礎利益と逆ざや>

○基礎利益（3社単純合算）



○逆ざや額（3社単純合算）



(単位：億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
基礎利益	1,077	233 減 (17.8%減)	504	5 減 (1.0%減)	621	35 増 (6.0%増)	△48	262 減 (-)
逆ざや額	293	283 減	70	55 減	191	225 減	32	2 減

■ 3社単純合算

- ・ **基礎利益**は、1,077億円、前年から233億円の減少。これは主に、T&Dフィナンシャル生命の基礎利益の減少による。

■ 各社の状況

- ・ **太陽生命の基礎利益**は、前年並みの504億円。
逆ざや額は、70億円、前年から55億円の減少。これは主に、利息及び配当金等収入が増加したこと、ならびに予定利息負担が減少したため。
- ・ **大同生命の基礎利益**は、621億円、前年から35億円の増加。
逆ざや額は、191億円、前年から225億円の減少。これは主に、利息及び配当金等収入の増加および、団体年金の予定利率引下げ等に伴い予定利息負担が減少したため。
- ・ **T&Dフィナンシャル生命の基礎利益**は、△48億円、前年から262億円の減少。これは主に、相場変動に伴い変額個人年金保険の最低保証責任準備金が前年度の戻入から繰入となったことによる。
逆ざや額は、32億円、前年から2億円の減少。

<ソルベンシー・マージン比率>

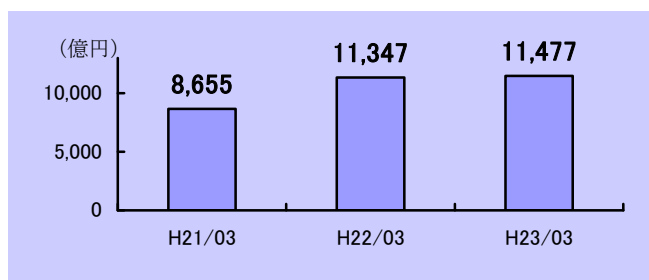
	太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
ソルベンシー・マージン比率	1,229.7%	205.9ポイント上昇	1,237.2%	116.6ポイント上昇	611.2%	34.8ポイント低下
(参考) 新基準による ソルベンシー・マージン比率※	670.8%		720.6%		571.1%	

※2012年3月期より導入される新基準に基づくソルベンシー・マージン比率

■ 各社の状況

- ・ **太陽生命のソルベンシー・マージン比率**は、1,229.7%、前年度末から205.9ポイント上昇。これは主に、劣後ローン・社債の調達によりソルベンシー・マージン総額が増加し、株式等のリスク資産の圧縮等により資産運用リスクが減少したため。
- ・ **大同生命のソルベンシー・マージン比率**は、1,237.2%、前年度末から116.6ポイント上昇。これは主に、株式等のリスク資産圧縮等により資産運用リスクが減少したため。
- ・ **T&Dフィナンシャル生命のソルベンシー・マージン比率**は、611.2%、前年度末から34.8ポイント低下。これは主に、相場変動によりソルベンシー・マージン総額が減少したため。

<実質純資産（3社単純合算）>



(単位：億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比
実質純資産	11,477	130 増	4,536	198 増	6,034	70 減	906	1 増

■ 3社単純合計

- ・ **実質純資産**は、1兆1,477億円と、前年度末から130億円の増加。これは主に、太陽生命の増加による。

■ 各社の状況

- ・ **太陽生命の実質純資産**は、4,536億円、前年度末から198億円の増加。これは主に国内公社債の差損益の増加等による。
- ・ **大同生命の実質純資産**は、6,034億円、前年度末から70億円の減少。これは主に有価証券差損益の減少等による。
- ・ **T&Dフィナンシャル生命の実質純資産**は、906億円、前年度末から1億円の増加。

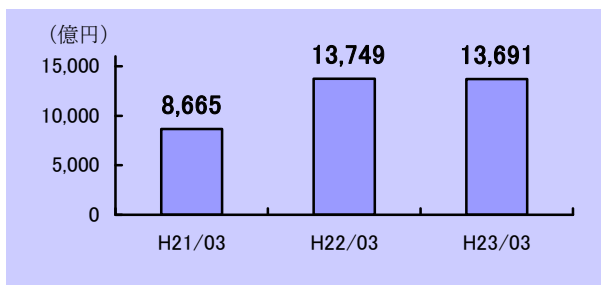
<有価証券差損益（一般勘定）>

(単位：億円)

	3社単純合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比
有価証券差損益（一般勘定）	2,147	141 減	1,357	110 増	738	272 減	50	19 増
うち公社債	1,102	298 増	609	215 増	443	63 増	49	19 増
うち株式	1,219	268 減	878	49 減	341	219 減	—	—
うち外国証券	△185	70 減	△176	85 減	△8	14 増	—	—
うちその他の証券	△74	169 減	3	0 増	△79	169 減	1	0 増
うち金銭の信託	△1	4 減	—	—	△1	4 減	—	—
土地等の差損益	192	95 減	16	69 減	176	26 減	—	—

(注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。
 2. 土地等の差損益については、原則として鑑定評価額（重要性の低い物件等については公示価格等）をもとに算出しております。

<ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV) >



(単位：億円)

	T&D保険グループ		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比	当事業年度末	前年比
EEV	13,691	58 減	4,906	149 増	8,050	133 減	734	73 減
修正純資産	8,614	268 増	3,742	187 増	4,274	79 増	597	0 増
既契約の将来価値	5,076	326 減	1,163	38 減	3,776	212 減	136	74 減

	T&D保険グループ		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約価値	547	35 増	249	4 減	311	9 減	△13	49 増

■ T & D 保険グループ

- ・ EEV は、1 兆 3, 6 9 1 億円と、前年度末から 5 8 億円の減少。
これは主に、金利が前年度末より低下したこと等により既契約の将来価値が減少したため。

■ 各社の状況

- ・ 太陽生命の EEV は、4, 9 0 6 億円、前年度末から 1 4 9 億円の増加。
- ・ 大同生命の EEV は、8, 0 5 0 億円、前年度末から 1 3 3 億円の減少。
- ・ T & D フィナンシャル生命の EEV は、7 3 4 億円、前年度末から 7 3 億円の減少。

※) 詳しくは、「平成 23 年 3 月末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示について」をご参照ください。

[平成24年3月期通期業績予想]

○T&Dホールディングス連結

平成24年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	平成23年3月期実績	平成24年3月期予想	増減
経常収益	19,930	19,500	430 減 (2.2%減)
経常利益	949	1,130	180 増 (19.0%増)
当期純利益	238	360	121 増 (50.8%増)

1株当たり年間配当金予想は45円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成24年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	8,900 (297 減) (3.2%減)	9,100 (526 減) (5.5%減)	2,700 (1,636 増) (153.9%増)
経常利益(△損失)	570 (71 増) (14.4%増)	540 (51 増) (10.6%増)	0 (70 増) (-)
当期純利益(△損失)	160 (34 増) (27.2%増)	200 (39 増) (24.5%増)	△0 (63 増) (100.0%減)

(注) 括弧内は平成23年3月期からの増減額・率です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以 上

(参考) 生命保険会社3社の平成24年3月期通期見通し

(単位：億円)

	3社単純合算	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
基礎利益	1,350 (272増) (25.3%増)	550 (45増) (9.1%増)	670 (48増) (7.8%増)	130 (178増) (-)
保険料等収入	16,700 (1,962増) (13.3%増)	7,200 (20増) (0.3%増)	7,100 (71減) (1.0%減)	2,400 (2,013増) (521.4%増)
逆ざや額	130 (163減) (55.7%減)	40 (30減) (43.0%減)	70 (121減) (63.4%減)	20 (12減) (37.6%減)
新契約高	68,300 (4,817増) (7.6%増)	29,500 (1,367増) (4.9%増)	36,500 (1,367増) (3.9%増)	2,300 (2,082増) (959.1%増)
保有契約高	585,700 (5,291増) (0.9%増)	203,100 (10,317増) (5.4%増)	361,300 (5,298減) (1.4%減)	21,300 (272増) (1.3%増)
解約失効率 (%)		6.3 (-)	8.9 (0.1ポイント上昇)	3.7 (0.7ポイント低下)

- (注) 1. 括弧内は平成23年3月期からの増減額・率です。
 2. 新契約高、保有契約高および解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。
 また、新契約高には転換による純増加高を含みます。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記見通しと大きく異なることがあります。

(参考) 契約者配当

○太陽生命

①個人保険・個人年金保険

- ・毎年お支払いする通常の配当金 ……前年度配当率を据え置きます。
- ・消滅時などにお支払いする特別配当金
 - 消滅時配当（責任準備金比例） ……前年度配当率を据え置きます。
 - 消滅時配当（保険料比例） ……前年度配当率を据え置きます。
 - 疾病健康配当 ……前年度より引き上げます。

10年以上経過して消滅かつ給付金支払のない疾病保障特約等について
 入院給付金日額1,000円につき2,000円
 (前年度：入院給付金日額1,000円につき1,800円)

②団体保険 前年度配当率を据え置きます。

③団体年金保険 前年度配当率を据え置きます。

○大同生命

①個人保険・個人年金保険 前年度配当率を据え置きます。

②団体保険 前年度配当率を据え置きます。

③団体年金保険 利差配当を0とします。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・前年度に引き続き割当はありません。

以上